

静岡英和学院大学 英和ユニバース (学報)

# EIWA UNIVERSE

今年度より本学の学長に柴田敏氏が就任いたしました。



## 心を高く上げよう

新学長 柴田 敏

2016年度の前期が終わろうとしています。学生の皆さん、この前期を振り返ってみて、どうだったでしょうか。納得のいく学生生活だったでしょうか。それとも、何か物足りないような感じがしているでしょうか。

納得のいく学生生活を送ったと感じている人たちは、次のように言えば同意してくれると思います。「納得のいく学生生活」は誰かがあなたのために用意してしてくれるものではありません。「こんなことがあったらいいな」。でも、そんなものはない。「それなら、私がやってみようじゃないか」。ないものは作ればいい、したいことは見つければいいという発想が大切なのです。

さて、今年の3月31日に文部科学省の「高大接続システム改革会議」が「最終報告」を公表しました。すでに大学生になっている皆さんにとっては、もはや関係のないことだと感じられるかもしれませんが。留学生の皆さんはなおさらでしょう。しかし、その中で示されている教育改革は、かなり大きな日本の教育の改革なのです。

新聞やテレビでは「大学入試センター試験が廃止される」「新しく大学入学希望者学力評価テストが行われる」といった、大学入試に関する話題が取り上げられていますが、それだけではありません。むしろ、小学校から高等学校までの学習指導要領の改訂により、高校までの教育内容が変わるので、大学入試も変わらざるを得ないということなのです。

では、どう変わるというのでしょうか。これまでは、学校では「知識・技能」を身に付けさせるのだとされてきました。だから、テストでも正確な知識をたくさん持っている人が好成績を上げました。

しかし、残念ながら、ただ知識だけたくさんあっても、現実の問題を解決することはできません。新しい世界を切り開くイノベーションを生み出すことはできません。「知

識・技能」を使う力である「思考力・判断力・表現力」を養うことも大事なのです。

しかし、しかし、それだけでも十分ではありません。それらの能力をどう生かしていくかが大切です。そこで、「主体性・多様性・協働性」です。つまり「主体性を持って多様な人々と協働する」態度がなければ、この世界を変えていくようなイノベーションにはつながらないと、そう考えられたのです。

小学校から大学までの教育課程の中で、「知識・技能」に加えて「思考力・判断力・表現力」を育て、さらに「主体性・多様性・協働性」を養うようにしようというわけです。それで大学入試でも「知識・技能」だけでなく、「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」まで見るようにしましょうということ。つまり「主体性を持って多様な人々と協働していく」。実に素晴らしいことではありませんか。そんなことができる人が育っていくなら、大変良いことだと思います。

さて、静岡英和学院が掲げる建学の理念は「愛と奉仕の実践」です。「主体性を持って多様な人々と協働していく」のは何のためでしょう。それは「愛と奉仕」を実践するためです。「愛と奉仕の実践」のためにこそ、私たちは、主体性を持って多様な人々と協働していくのです。

今の時代にはさまざまな問題があります。貧困の問題、高齢化社会の問題、環境問題、エネルギー問題など、簡単には解決のできない問題がたくさんあります。しかし、「誰かが何か考えてくれるんだろう」ではない。一人一人が、自分の問題として、さまざまな隣人と協力して、問題の解決を目指していく。今、そのような社会が望まれているのです。

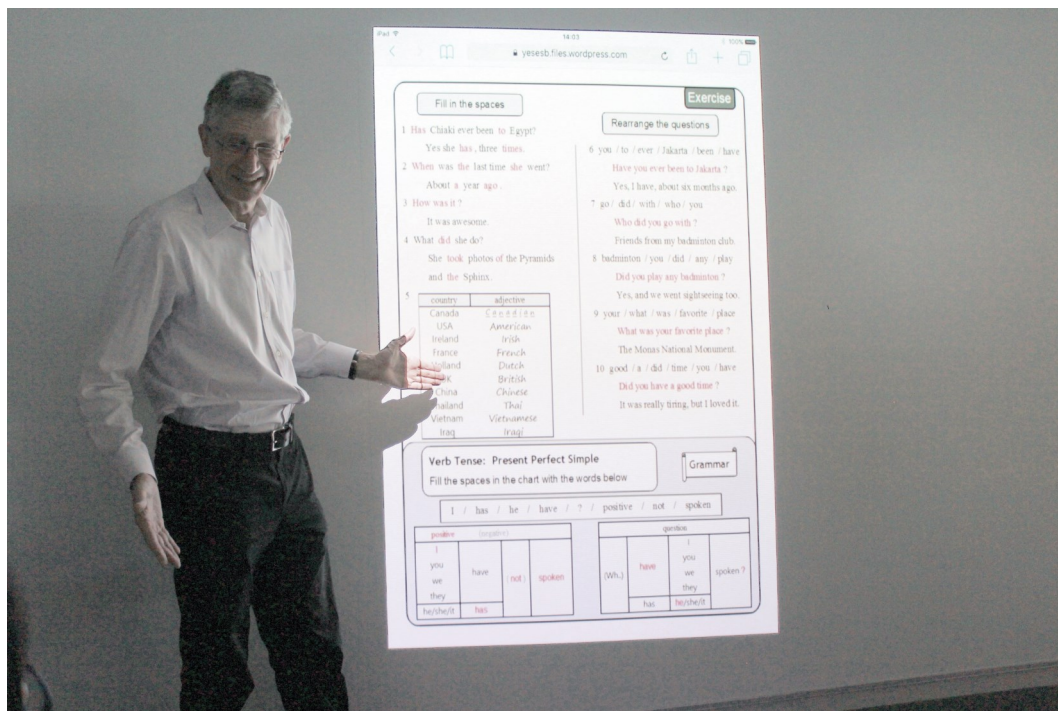
皆さんも、その一翼を担う大切な一人一人です。ともに、心を高く上げて、歩んでいきましょう。



## 目次

1. 新学長あいさつ
- 2-3. 後援会
4. 学科NEWS (大学)
5. 学科NEWS (短大)
6. キャリア支援課
7. 学務課
7. 留学生センター
7. ボランティアセンター
8. 宗教委員会

## NEST（英語学習ラウンジ）から飛び立つ



## 学習者が主体となって学び、考え、課題を解決

この春、本学のLL教室が全面改修され、英語学習ラウンジ「NEST（ネスト）」に生まれ変わりました。LL教室は、長年にわたり本学の外国語教育において重要な役割を担ってきました。卒業された方の中には、LL教室を利用して外国語を学習した方も多いかと思います。

LLとはLanguage Laboratoryの略で、カセットテープ等の音源を用いて、聞き取り、反復練習といった語学学習ができるようなシステムが整備された場所を指します。こうした学習方法は、60年代に台頭した「オーディオリンガル・メソッド」という教授法に基づいています。母語話者の発話を自動的、かつ反射的に再現できるよう、パターン・プラクティス（機械的な口頭練習）を繰り返すのが特徴です。クラスの数が多く、学生の習熟度に差があっても実施可能であるというのが利点です。しかし、80年代に入ってから、こうした反復練習は必ずしもコミュニケーション能力の育成に結びつかないという批判が起きました。

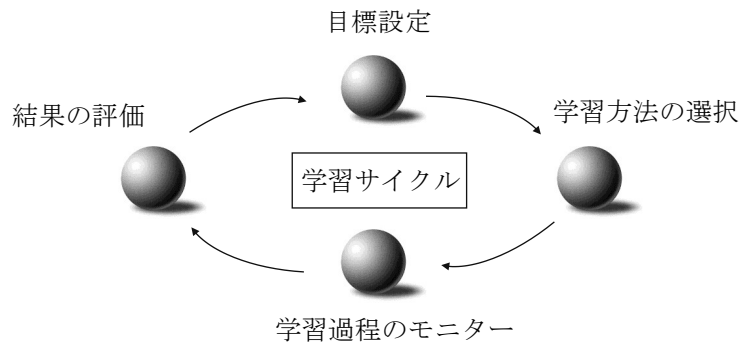
また、記録媒体のデジタル化により、新たな学習システムを配備する必要に迫られたことも改修に至った大きな理由です。本学のLL教室にも、指導者用のマスターコントロールやカセットテープを媒体とする機器類が備えつけられていました。しかし、時代の趨勢とともにセットテープは衰退し、今やカセットテープどころかMDの存在すら知らないという学生も珍しくなくなりました。また、学生用ブースのディスプレイやヘッドホンの多くにも不具合が生じており、早急な改修が望まれていました。

改修にあたっては、2つの案がありました。ひとつは最新のLLシステムを導入し、CALL（コール）教室として利用するという案です。CALLとは「Computer Assisted Language Learning」の略で、コンピュータを用いて語学学習を支援することです。各ブースにコンピュータが設置され、サーバを通して、音声や動画、テキストといった教材が学生に配信されます。CALL教室であれば、旧LL教室で可能であった語学学習が新たなシステムの元で再現できます。しかし、本学には既に複数のコンピュータールームがあり、学内LANに接続されたデスクトップコンピュータが備えられています。こうした機器に語学学習用ソフトを組み込むことで、将来的にコンピュータールームをCALL教室として使用できることから、この案は見送られました。

もうひとつの案は、学生用ブースを撤去し、アクティブラーニングが可能な英語学習ラウンジに改修するというものでした。アクティブラーニングとは、教師から学生への一方的な講義ではなく、学習者が主体となって学び、考え、課題を解決する学習方法です。議論やディベート、グループワークといった手法が多く用いられ、語学学習にも有用であるとされています。このような経緯から、英語学習ラウンジ「NEST」には、無線LAN、プロジェクター、スクリーン、iPad、ワイヤレスマイク、ポータブルスピーカー、インタラクティブホワイトボード（電子黒板）、モジュール型の机や椅子等が配備され、シンプルで美しい空間が誕生しました。

「NEST」の目的

- (1) 英検スカラシップ生をはじめ、英語習得に高い意欲をもつ学生に対し、学習を総合的に支援する
- (2) 自律的に英語学習に取り組むことができる学習者を育てる
- (3) 学習者の英語能力に応じた自学自習プログラムを提供する
- (4) 指導員による少人数のセッションにおいて、理解能力だけでなく産出能力を伸長する



今後設置予定の4セッション

- (1) スピーキング・セッション：  
指導員とのディスカッションなどを通し、英語を実際に運用する力をつけます。上級者はより高度な言語表現を学び、学術英語やビジネス英語を身につけます。
- (2) ライティング・セッション：  
指導員の直接指導により、英語のライティング能力を対話を通して向上させます。また、ライティングの基本的な技能を身につけるためのワークショップを開きます。
- (3) eラーニング・プログラム：  
ITを利用した自学自習システムの利用により、文法、リーディング、リスニングの実践的なトレーニングを行います。ウェブサイトを利用した英語学習についても支援します。
- (4) 多読ライブラリー：  
Graded Readers (段階的読みもの) や洋書を用いた多読プログラムを実施します。読んだ本についての記録 (Book Review) を指導員に提出し、フィードバックを受けることも可能です。



**4技能をバランス良く！**

「NEST」では、英語の学習の進め方など基本的な学習スキル習得についてのサポートのほか、必要に応じて補習を行います。目標設定 → 学習方法の選択 → 学習過程のモニター → 結果の評価 → 目標の再設定 という一連の学習サイクルを学生が主体的に行えるよう支援します。また、英語関連資格の取得を推奨し、英検（二次試験の模擬面接等）やTOEICの対策を行います。また、留学、就職にも役立つようなワークショップや勉強会を企画しています。

「NEST」という名前は本学教授のパトリック・ハリントン先生が考案してくださいました。「鳥の巣」を意味する「NEST」という語には、この英語学習ラウンジで学び、外国語能力を手にして飛び立っていく学生たちの姿

が重ねられています。また、本学のLL教室は北館5階の西側という最高に見晴らしのいい場所であり、木上の巣のイメージにも合致します。

本事業にあたっては、大学後援会より多大なるご支援をいただきました。また教職員の皆様のご協力なくして、このラウンジの完成はありませんでした。ご尽力に心より感謝申し上げます。今後、稼働率を高めていけるよう、英語教育センターの教員一同、努力を重ねてまいります。ありがとうございました。（英語教育センター 谷口）



## 1 番読みたくなる本は -ビブリオバトル-



人間社会学科の学生が入学して初めて所属するゼミ、それが基礎演習 I のゼミです。

2年後期から始まる専門ゼミでは5メジャーそれぞれの専門分野を深く学ぶこととなりますが、2年前期までの基礎ゼミでは、各専門分野に共通する、大学生として身につけておくべき基礎能力の獲得を目的としています。その始点に位置するのが基礎演習 I です。

さて、現代の社会人には、他者と交流し、自己の意見を的確に伝える力、すなわち、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力が欠かせません。演習ゼミで学生は、紙媒体あるいはPCプレゼンテーションソフトを用いて、レジュメや資料を提示しつつプレゼンテーションを、さらに質疑応答のコミュニケーションを繰り返し行なってこの能力をブラッシュアップし体得していきます。自分が選んだ、好きな学問分野で、社会人に必要な能力を獲得

できる場が大学であり、その集大成が卒業論文だといえるでしょう。

基礎ゼミは、専門的な学問領域の勉強を本格的に開始する足慣らしの場ともいえますが、もちろんコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の獲得をめざした試みはなされます。基礎演習 I で実施されるビブリオバトルは、そうした試みの一環です。本学図書館の蔵書の中から、自分の関心のある本を選定し、口頭で5分間その本の紹介をするプレゼンテーションのイベントです。紹介された本の中で、どの本が一番読みたくなったか、を選考基準として勝者を決定、各ゼミ内で最多票を獲得した学生が、予選突破者として本選に出場します。本年度も7月12日に本選が行われ、各ゼミの代表が充実したプレゼンテーションを展開しました。

(人間社会 古郡)



## スタート!

スクールソーシャルワーク  
教育課程が開始

コミュニティ福祉学科は昨年、一般社団法人日本社会福祉士養成校協会から、スクールソーシャルワーク教育課程の設置認定を受けました。これは、静岡県内では初めてとなり、静岡新聞(2015年12月4日朝刊)、中日新聞(2015年12月9日朝刊)にも掲載されました。社会福祉士を養成している大学等は全国で270校ほどありますが、その中でこのスクールソーシャルワーク教育課程を設置している養成校はわずか40校ほどとなっております(2016年4月現在)。

スクールソーシャルワークでは、主に児童・生徒とその家族を対象とした相談援助を行っていきます。その担い手をスクールソーシャルワーカーと言います。「2019年までに1万人ものスクールソーシャルワーカーを配置する」と2014年8月に内閣で閣議決定されました。時代の要請に応えるかたちで始まったスクールソーシャルワーク教育課程を今年度は5名の学生が履修しています。

静岡県内でもすべての市町にスクールソーシャルワーカーが配置されています。静岡県の子どもとその家族を支えるために、これからスクールソーシャルワーカーの輩出に取り組んでまいります。

(コミ福 栗原)

めざせ  
1万人!

子育てばばママ広場  
みんなであちよぼ

昨年度から『あちよぼ』は名称を『子育てばばママ広場 - みんなであちよぼ -』とリニューアルしました。より地域の保護者が参加しやすいように、祭日を開催日としたことなど、改善も試みました。6年目となっても地域親子との交流の場として、また、学生たちの保育実践の場もとして、重要な取り組みとなっています。

今年度は、学生が100人越えて参画することになりました。大勢の学生で援助できるため、面白い取り組みを企画しています。その一つ、学生たちが考案した乳児が楽しめるゲームコーナーです。あそびにきてくれる子どもたちの年齢発達にあった玩具をいくつか作成しています。学生たちの協力体制や熱意から、親子たちに愛情が伝わること請け合いです。(コミ福 永田)





焼津のゆるキャラ  
“やいちゃん”

### 焼津みなとまつりでの地域調査

現代コミュニケーション学科の観光ゼミに所属する学生8名が4月10日(日)、第62回焼津みなとまつりに参加し、地域調査を実施しました。静岡英和学院大学短期大学部は、平成26年1月30日、焼津市役所、焼津信用金庫と焼津市観光事業の活性化に向けて産官学連携基本協定を締結し、平成26年度からツーリズム・ユニットの履修学生を中心に焼津市の観光現状を把握するための地域調査を行っています。



今年「焼津市と藤枝市の地域資源に関する調査」をテーマに焼津みなとまつりの会場でアンケート調査を実施しました。当日はみなとマラソンもあり、焼津市内外から大変多くの来場者で賑わいました。

今回の地域調査に参加した学生はお祭りに訪れた方々へアンケート調査を実施したほか、焼津信用金庫様の「はなまる太郎クイズスタンプラリー」のアシスタントとしても活躍しました。「はなまる太郎クイズスタンプラリー」は地元の子供たち向けに企画されたイベントとして、学生スタッフは3カ所のスタンプラリー台に配置され、子供たちにクイズを出したり、スタンプラリーの台紙にスタンプを押してあげるなど、たくさんの子供たちとお子様連れのご家族に触れ合うことができました。

参加した学生の感想の中には「地域の方々が“いつも焼津信さんにはお世話になっている”と温かい声をかけて下さり、自分もこのように地域の方々と関わりを大切にしながら、地域に貢献できるお仕事に就きたいと強く思いました。スタッフとして参加した短期間の体験でしたが、やりがいを感じた一日でした。」との声がありました。今回の活動に参加した学生は、調査体験だけではなく、地域の方々と交流を通じて、自分たちと社会の関わりや社会の構成員の一人としてできることは何かなどについて新たに考える機会となりました。(現コミ 安)



### 学び企画の発信 -特別講演会と食のプレゼンコンテスト-

近年、食の専門家を目指す学生にとって、課題を解決する能力や自主的な行動力の向上が望まれるようになりつつあります。食物学科では、新入生のオリエンテーション期間中に特別講演会を実施して、学生の意欲向上に努めています。今年度は、京都の老舗料理屋 山ばな平八茶屋 21代目若主人 園部晋吾氏を招いて、『代を継ぐ ~430年の時を経て~』をテーマに行いました。若主人が考える食育や旨味の話から、ご自身の経験による新しい精進料理の創作苦労話、和食の驚きの解釈まで、伝統を受け継ぎながらも新しいことに信念をもって挑む姿を、京都弁の優しい語りにてご講演いただきました。



京都のゆるキャラ  
“たけにょん”

ご講演をお願いするに先立ち、「食でリフレッシュ in 梅ヶ島 PartⅢ」として、大学教員、学生、梅ヶ島地区の方々、総勢33名にて京都研修に行きました。萬福寺では普茶料理を体験し、老舗料亭 近又では素晴らしい朝食をいただいた後に料理長の話の伺い、他にも京都ならではの鯖寿司をはじめとした様々な歴史ある食を体験してきました。この研修に参加した学生は、事前に食のプレゼンテーションコンテストにて優秀な成績を収めた10名です。準備の段階からそれぞれの課題について調べ、資料や発表媒体を用意し、研修中には、食と農のデザインを手がけプレゼンテーションのプロである迫田 司氏、佐々倉玲於氏や



梅ヶ島の方々の前で発表を行いました。厳しくも的を得た批評・ご指導の数々は、教員の目から気づかなかった指摘も多く、学生のみならず、我々にとっても大変勉強になりました。このような多様な職種の専門家と直に接する機会を多く設けることが、学生の視野を広げ、自主性を育み、ひいては社会で活躍する能力獲得、意欲の向上につながると思われます。今後も学科として、様々な企画を発信し、社会に貢献できる栄養士育成に努めていきたいと考えております。(食物学科 佐々)



### 1 2015年度卒業生の就職状況

就職を希望する卒業生の就職率は、人間社会学科が98.7%、コミュニティ福祉学科が100%、現代コミュニケーション学科が94.3%、食物学科が100%です。過去最高の就職率だった昨年度を更新しました。

教員とキャリア支援課の連携が強化され、個々の学生の状況把握がスムーズに出来たことにより、必要とする支援の提供や個別の求人紹介ができて、内定に繋がりました。

### 2 就職活動中の大学4年生・短大2年生への支援

就職活動中の学生には、就職活動の進め方などの就職活動に関する個別相談、履歴書・エントリーシートなどの書類添削、面接指導を行っています。いずれも予約制で時間を取り対応していますので、積極的に活用してください。就職活動に踏み出せない、「何をしたらよいか わからない」という学生は、まずはキャリア支援課の個別相談を利用することをお勧めします。

### 3 大学3年生・短大1年生への支援

大学3年生は、4月から毎週月曜日5時限目に、短大生は6月末から毎週木曜日5時限目に「キャリア支援・就職支援講座」を開講しています。就職活動に必須となる知識やノウハウを着実に身に付けていくステップ式の講座なので、参加することで確実に内定に繋がります。

### 4 「保護者ができる就職支援セミナー」の開催

保護者のサポートは大変重要です。保護者がお子様に適切なアドバイスを行うためには、現在の就職活動を正しく理解して頂くことが不可欠です。保護者世代が経験した就職活動と現在の就職活動は、社会経済状況、就職活動や選考方法に大きな違いがあります。その違いや本学の就職支援についてご説明するため、大学1~3年生と短大1年生の保護者を対象とした「保護者ができる就職支援セミナー」を9月3日(土)と2月4日(土)に開催します。このセミナーに参加して頂き、保護者の皆様からお子様をサポート頂きたいと考えています。9月3日分については7月にご案内を郵送しますので、是非お申し込み頂きたいと思います。(キャリア支援課 鷲山)

## 学務課から見える世界



学務課には日々多くの学生が、様々な用件を抱えて窓口を訪れます。授業の履修に関すること、奨学金の申請に関すること、課外活動(サークル)に関すること、などなどです。

学生に対応して思うのですが、窓口を訪れる学生の態度も人それぞれで、「入り口でノックをしてから入室してくる学生」、「事務室に入るなり真っ先に用件を申し出る学生」、「まず挨拶してくれる学生」、「なかなか自分の用件を言い出せずに躊躇している学生」、「用件が言い出せずに一度事務室を出て行く学生」と十人十色です。誰の言動や行動が正しいというわけではなく、どれも個性であり、特長のひとつなのでしょう。

窓口で最初はだらしない口調で喋っていた学生が、学年を重ねるごとに丁寧な口調になることがあります。逆に丁寧な口調からだらしない口調に変わっていく学生もいます。そこには成長(!?)の過程が見て取れます。当然、事務職員

のスタンスとしては、ある学生への対応が丁寧で、別の学生への対応は冷たい、といった差

はあってはならないことであり、職員一同が心がけていることです。

窓口対応をしていると、中には「気持ちいい」学生たちがいます。そんな学生たちは、言葉遣いが綺麗であったり、態度が紳士的であったり、素直であったり、笑顔を絶やさなかったりと、持ち合わせているマナーや節度が、このような対応の基礎になっているのでしょう。

一言にマナーと言っても様々ありますが、その中でも誰かが出来ることと言えば一つ思い浮かびます。それは「挨拶」です。

ただ、簡単に挨拶と言いますが、挨拶をするにも少しの勇気がいります。私は大学職員でありながら、学生皆に挨拶が出来ていない現状にあります。しかし、誰でも少しの勇気を持てばできるマナー表現、それが一言の挨拶です。

挨拶一つで劇的に世界は変わりませんが、周りの人が受け取る印象は大きく変わるのではないのでしょうか。どうせ与えるなら良い印象の方が当然いい、誰もが思うことです。

キャンパス内には1,000人の学生が在籍しています。1,000人の挨拶が飛び交う活気溢れるキャンパスは、私の憧れです。まずは自分から心がけたいです。「挨拶」をしていこうという私の想いに、一人でも多くの方が共感してくれると嬉しいです。(学務課 森)



# 留 学 生 の 活 躍

～新学期がスタートしました～

## \*ふじのくに留学生親善大使に任命

静岡県と世界との友好交流のかけ橋として活躍することを期待された「ふじのくに留学生親善大使」の委嘱式が、6月17日（金）に静岡県庁で行われ、本学から中国、韓国、ベトナム出身者計4名の留学生が2016年ふじのくに留学生親善大使に任命されました。静岡県内の各種イベントに参加して母国文化の紹介等大いに活躍をされることを期待していません。



## \*日本語能力試験対策講座（前期）の開催

留学生の日本語能力の向上を図り資格の取得を支援するために、毎年取り組んでいる日本語能力試験対策講座を4月26日（火）よりスタートしました。7月に予定されている日本語能力試験に向けて、4月～6月の3ヶ月間で、N1級、N2級に分け、各級とも週1回、計9回実施する予定です。試験合格に向けて留学生たちが勉学に励んでいます。なお、後期にも対策講座を企画しています。



## \*新入生（留学生）との交流会

新入生が早く新しい環境で充実した学生生活を送れるように、4月27日（水）に新館棟1階のラウンジで新入生との交流会を開催しました。交流会には、50名以上の先輩の留学生と日本人学生が参加し、学生同士の和やかな雰囲気が漂っている中、学生生活などについて話し合いながら親睦を深めました。



## \*華道交流会の開催



日本文化を学ぶという趣旨で、6月15日（水）、本学の華道部指導者の泉水先生に、ご協力をお願いし、華道交流会を開催しました。お昼休みの短い時間でしたが参加者は和やかな雰囲気の中で、生け花に挑戦し作品を完成することができました。初めて体験する留学生もあり楽しい華道交流会になりました。交流会のご準備、ご指導をいただいた泉水先生、本当にありがとうございました。（留学生センター 鈴木）

## 熊本地震による被災者への食料提供をしました。

2016年4月14日午後9時26分ごろ、熊本地震が発生し、長引く余震活動などのために多くの方が避難所での生活を余儀なくされました。食糧配給の支援ボランティアを行っている「NPO法人フードバンクふじのくに」から、熊本地震で避難所で過ごしている方々に、全国からお米や飲料は届き始めたのですが、炊き出したご飯に添える「おかず類」の供給が、決定的に不足している事を教えられました。そこで、学内で被災者への食料提供の呼び掛けを「おかずになる缶詰」「カップ麺」「即席みそ汁」の3種限定として行いました。多くの学生及び教職員が協力してくださり、ありがたい思いで一杯でした。



第1弾として4月25日に、第2弾として4月27日に、第3弾として4月28日に、それぞれボランティアセンター学生スタッフの2人が「NPO法人フードバンクふじのくに」にお伺いし、食料をお渡しいたしました。また、食料を仕分ける人手が足りないとの事で、食料を仕分けるボランティアをさせて頂くこともありました。

今回、「おかずになる缶詰」「カップ麺」「即席みそ汁」等の食料提供に御協力下さった学生及び教職員の皆様、本当にありがとうございました。皆様が提供して下さいました食料が被災地において有効活用され、被災された方々の少しでもお役に立てたことだと思います。

（ボランティアセンター 橋本）





英和 | リトリート | いいね!

2016年春、今年も新入生が本学へ入学してきました。4月・受け入れ側としてはどんな学生が入って来たのか楽しみな時なのですが、一年生にとっては期待と共に色々な不安をもって過ごす、少し苦痛の時であるかもしれません。

毎年恒例のスチューデントリトリート後に参加者全員に書いてもらう感想レポートによれば、リトリートは新入生にとってかなりのプレッシャーで、行く前にはほとんどの学生が行きたくない症候群のようです。しかし終わってみれば、ほとんどの学生が参加できたことに感謝していることがわかります。

さて、本学では開学以来、入学してきた学生全員参加のスチューデントリトリートを行ってきましたが、4月16日(土)から18日(月)まで、短大、大学それぞれ1泊2日の日程で、1年生全員と引率教員、各学科の引率上級生が共に過ごし、良い交流ができたようです。開催はここ3年続けてキリスト教施設である天城山荘で行われ、厳かな雰囲気の大チャペルで開会礼拝から始まり、閉会礼拝で終わるというキリスト教に基づく行事となっています。

今年度の宗教の主題は「完全な者となる」ですが、まずその意味をこの礼拝で話しました。今回、引率教員は柴田学長と4大からは人間社会学科の古谷先生、谷口先生、コミュニティ福祉学科からは中原先生、鈴木先生、短大からは現代コミュニケーション学科の高橋先生、安先生、食物学科の望月先生、清水先生、そしてオルガニストの菊池みち子先生と私、伊勢田宗教主任、引率上級生は4大からは8名、短大からは5名でした。上級生たちは自分たちが参加した時のリトリートを振り返りながら、どうしたら1年生が大学に慣れ、自分たちの英和愛を伝えられるか、春休みに集まって楽しみながら企

画してくれました。

開会礼拝後、「リトリート」全体のスケジュールの説明と引率者の簡単な自己紹介、上級生による自分の経験を基としたアドバイスが行われました。そしておやつの時間をはさんで先生を交えた学科別の話し合いが行われ、自由時間の頃になると、一年生たちも緊張感がほぐれてきて和やかな雰囲気になってきました。夕食時には、食事の配膳も和気藹々になってきて、食事の前のお祈りと皆で声を合わせた「アーメン」、食後の「ごちそうさま」にも慣れてきたようでした。

19時からの大チャペルのキャンドル・サービスには多くの学生が感動したようです。キャンドルの光の下、一人一人が静かに礼拝の中に身をおきつつ、一日を振り返ったり、これからの大学生活を考えたりしたことでしょう。その後は体育館で汗を流す者や、仲良くなった友や先生、上級生と語り合う者もいたり・翌日は閉会礼拝で天城山荘でのプログラムを終え、みんなでハワイアンズという施設に行き、フラダンスショーを見たり、50種類もあるヴァイキングに舌鼓をうちつつ、楽しい時間を満喫して、一泊二日のリトリートを終わりました。

今回、参加した者だけが分かち合え、想い出に残る事柄がありました。それは、4大生は引率上級生の「熱い友情から流した涙」、短大生は「長縄の熱い熱い戦い」です。後日、チャペルで「リトリートを振り返って」と題して10人の学生に話をしてもらいましたが、皆、これからの大学生活に前向きになったようで、これだけでもリトリートは大成功だったと言えるでしょう。本学で学ぶ一人一人の学生が、キリスト教の愛を身につけつつ、英和を愛する一人一人になるように祈ります。(宗教 伊勢田)



静岡英和学院大学  
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY



静岡英和学院大学短期大学部  
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE

〒422-8545

静岡市駿河区池田1769

TEL 054-261-9201

FAX 054-263-4763

最新情報 <http://www.shizuoka-eiwa.ac.jp>

ご意見・ご感想 [info@shizuoka-eiwa.ac.jp](mailto:info@shizuoka-eiwa.ac.jp)

企画・編集 学報委員会